

# デーヴォ ガイド



**2024.6.17-23**

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

## セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディポジションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

## ➤ 17日 月曜

### オバデヤ

1:1 オバデヤの幻。【神】である主は、エドムについてこう言われる。——私たちは【主】から知らせを聞いた。使節が国々の間に送られてこう言った、と。「さあ、立ち上がれ。エドムと戦おう」——

1:2 「見よ。わたしはおまえを国々の中で小さい者、ひどく蔑まれる者とする。

1:3 岩の裂け目に住み、高い所を住まいとする者よ。おまえの高慢は、おまえ自身を欺いている。おまえは心の中で言っている。『だれが私を地に引きずり降ろせるのか』と。

1:4 鷲のように高く上っても、星々の間に巢を作っても、わたしは、おまえをそこから引きずり降ろす。——【主】のことば。

1:5 盗人がおまえのところに来るなら、しかも夜に、荒らす者が来るなら、——いかに、おまえは荒らされることか——彼らは欲しい分だけ盗んで行くではないか。ぶどうを収穫する者がおまえのところに来るなら、彼らは取り残しの実を残さないだろうか。

1:6 ああ、エサウは捜し出され、その秘宝は見つけ出される。

1:7 おまえと同盟を組む者たちがみな、おまえを国境まで送り返し、親しい友がおまえを欺いて征服する。おまえのパンを食べていた者が、おまえの足もとに罫を仕掛ける。こんなおまえに英知はない。

1:8 その日には、——【主】のことば——わたしは、エドムから知恵ある者たちを、エサウの山から英知を消し去らないであろうか。

1:9 テマンよ、おまえの勇士たちは気をくじられる。虐殺され、エサウの山から一人残らず断ち切られる。



1:10 おまえの兄弟、ヤコブへの暴虐のために、恥がおまえをおおい、おまえは永遠に断たれる。

1:11 他国人がエルサレムの財宝を奪い去り、外国人がその門に押し入り、エルサレムをくじ引きにして取ったその日、おまえは素知らぬ顔で立っていた。おまえもまた、彼らのうちの一人のようであった。

1:12 おまえは兄弟の災難の日に、それを見ていてはならない。ユダの子らの滅びの日に、彼らのことで喜んではならない。その苦難の日に大口をたたいてはならない。

1:13 おまえは彼らのわざわいの日に、わたしの民の門に入ってはならない。ほかでもないおまえが、彼の破局の日に、そのわざわいを眺めていてはならない。彼の破局の日に、彼らの財宝に手を伸ばしてはならない。

1:14 その逃れる者を断つために、別れ道に立ちふさがってはならない。その苦難の日に、彼らの生き残った者を引き渡してはならない。

主はイスラエルを悩ましたエドムの「暴虐」を忘れません。主は御自身の民の味方だからです。イスラエルが主背いたのは原因であったとしても、それでも主は、イスラエルを愛しておられるのです。

新約においては私たち、主に救われて者が主の民です。私たちがまた主のあわれみを求めることができます。主は敵をいつまでも放っておかれませんが、主に頼りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ➤ 18日 火曜

### オバデヤ



1:15 なぜなら、【主】の日がすべての国々に近づいているからだ。おまえは、自分がしたように、自分にもされる。おまえの報いは、おまえの頭上に返る。

1:16 おまえたちがわたしの聖なる山で飲んだように、すべての国々も絶えず飲み続け、飲んだり、すすったりする。彼らはまるで、いなかった者のようになる。

1:17 しかし、シオンの山には、逃れの者がいるようになる。そこは聖となり、ヤコブの家は自分の領地を所有するようになる。

1:18 ヤコブの家は火となり、ヨセフの家は炎となる。エサウの家は刈り株となり、火と炎は刈り株に燃えつき、これを焼き尽くす。エサウの家には生き残る者がいなくなる。」

【主】がこう告げられたのである。

1:19 ネゲブの人々はエサウの山を、シェフェラの人々はペリシテ人の地を占領する。また彼らはエフライムの野とサマリアの野を占領し、ベニヤミンはギルアデを占領する。

1:20 イスラエルの人々に属する、この一群の捕囚の民はカナン人の地をツアレファテまで占領し、セファラデにいるエルサレムからの捕囚の民はネゲブの町々を占領する。

1:21 救う者たちは、エサウの山をさばくため、シオンの山に上る。こうして、王国は【主】のものとなる。

主にさばかれたイスラエルでしたが、「ヤコブの家は火となり、ヨセフの家は炎となり、エサウの家は刈り株となる。火と炎はわらに燃えつき、これを焼き尽くし、エサウの家には生き残る者がいなくなる」と、主はイスラエルの勝利とエドム（エサウの子孫）の滅びを約束なさいます。

主のときを待ちましょう。決して不信仰に陥って

主から離れないようにしましょう。主の反対者にならないようにしましょう。主は生きておられ、最も良いときに勝利を与えてくださいます。またそれまでも訓練と恵を与えて、支えてくださいます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ➤ 19日 水曜

### 列王Ⅱ

1:1 アハブの死後、モアブがイスラエルに背いた。

1:2 アハズヤは、サマリアにあった彼の屋上の部屋の欄干から落ちて重体に陥った。彼は使者たちを遣わし、「行って、エクロンの神、バアル・ゼブブに、私のこの病が治るかどうか伺いを立てよ」と命じた。

1:3 そのころ、【主】の使いがティシブエ人エリヤに告げた。「さあ、上って行って、サマリアの王の使者たちに会い、彼らにこう言え。『あなたがたがエクロンの神、バアル・ゼブブに伺いを立てに行くのは、イスラエルに神がいないためか。』」

1:4 それゆえ、【主】はこう言われる。あなたは上ったその寝台から降りることはない。あなたは必ず死ぬ。』」そこでエリヤは出て行った。

1:5 使者たちがアハズヤのもとに戻って来たので、彼は「なぜおまえたちは帰って来たのか」と彼らに尋ねた。

1:6 彼らは答えた。「ある人が私たちに会いに上って来て言いました。『自分たちを遣わした王のところに帰って、彼にこう告げなさい。【主】はこう言われる。あなたが人を遣わして、エクロンの神、バアル・ゼブブに伺いを立てるのは、イスラエルに神がいないためか。それゆえ、あなたは上ったその寝台から降りることはない。あなたは必ず死ぬ。』」

1:7 アハズヤは彼らに尋ねた。「おまえたちに会いに上って来て、そんなことを告げたのはどんな男か。」

1:8 彼らが「毛衣を着て、腰に革の帯を締め



た人でした」と答えると、アハズヤは「それはティシブエ人エリヤだ」と言った。

歴代の王たちが主に従わずに、イスラエルを滅びに向かわせたことが記されています。主のさばきが以下に正当なものであったかが明らかです。

アハズヤは欄干から落ちて病気になることあります。信仰の浅い人の一つの特徴は、問題が起きたときに主を疑うという点にあります。そして神様から離れてしまう場合もあるのです。それはまさにこの悪王アハズヤと一緒に、愚かな姿です。問題が起きたのは、主に何か深い考えがあったからで、私たちは尚更主に近づいていく必要があります。

健全な信仰者にとっては、問題・試験こそ主に近づくチャンスなのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 20日 木曜

### 列王Ⅱ



1:9 そこでアハズヤは、五十人隊の長を、その部下五十人とともにエリヤのところに遣わした。隊長がエリヤのところに上って行くと、そのとき、エリヤは山の頂に座っていた。隊長はエリヤに言った。「神の人よ、王のお告げです。下りて来てください。」

1:10 エリヤはその五十人隊の長に答えて言った。「私が神の人であるなら、天から火が下って来て、あなたとあなたの部下五十人を焼き尽くすだろう。」すると、天から火が下って来て、彼とその部下五十人を焼き尽くした。

1:11 王はまた、もう一人の五十人隊の長を、その部下五十人とともにエリヤのところに遣わした。隊長はエリヤに言った。「神の人よ、王がこう言われます。急いで下りて来てください。」

1:12 エリヤは彼らに答えた。「私が神の人であるなら、天から火が下って来て、あなたとあなたの部下五十人を焼き尽くすだろう。」すると、天から神の火が下って来て、彼とその部下五十人を焼き尽くした。

1:13 王はまた、第三の五十人隊の長と、その部下五十人を遣わした。この三人目の五十人隊の長は上って行き、エリヤの前にひざまずき、懇願して言った。「神の人よ、どうか私のいのちと、このあなたのしもべ五十人のいのちをお助けください。」

1:14 ご承知のように、天から火が下って来て、先の二人の五十人隊の長とそれぞれの部下五十人を、焼き尽くしてしまいました。今、私のいのちをお助けください。」

1:15 【主】の使いがエリヤに「彼と一緒に

下って行け。彼を恐れてはならない」と言ったので、エリヤは立って、彼と一緒に王のところに下って行き、

1:16 王に言った。「【主】はこう言われる。『あなたが使者たちをエクロンの神、バアル・ゼブブに伺いを立てに遣わしたのは、イスラエルにみことばを伺う神がいないためか。それゆえ、あなたは上ったその寝台から降りることはない。あなたは必ず死ぬ。』」

1:17 王は、エリヤが告げた【主】のことばのとおり死んだ。そしてヨラムが代わって王となった。それはユダの王ヨシヤフテの子ヨラムの第二年のことであった。アハズヤには息子がいなかったからである。

1:18 アハズヤが行ったその他の事柄、それは『イスラエルの王の歴代誌』に確かに記されている。

王の命令だからと、エリヤに下りてくるように命じた態度は、神よりも王を権威とした傲慢な心から発しています。彼らは神の火に焼かれました。一方、謙ってエリヤに懇願した者たちは生かされました。主の権威は人よりも偉大であることを、あらゆる場合に認めて、行動しなければなりません。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 21日 金曜

### 列王Ⅱ



2:1 【主】がエリヤを竜巻に乗せて天に上げようとしたときのこと、エリヤはエリシャを連れてギルガルから出て行った。

2:2 エリヤはエリシャに「ここにとどまっていなさい。【主】が私をベテルに遣わされたから」と言った。しかしエリシャは言った。「【主】は生きておられます。あなたのたましいも生きています。私は決してあなたから離れません。」こうして、彼らはベテルに下って行った。

2:3 すると、ベテルの預言者の仲間たちがエリシャのところに出来て来て、彼に言った。「今日、【主】があなたの主人をあなたから取り上げられることを知っていますか。」エリシャは、「私も知っていますが、黙っててください」と答えた。

2:4 エリヤは彼に「エリシャ、ここにとどまっていなさい。【主】が私をエリコに遣わされたから」と言った。しかし彼は言った。「【主】は生きておられます。あなたのたましいも生きています。私は決してあなたから離れません。」こうして、彼らはエリコにやって来た。

2:5 するとエリコの預言者の仲間たちがエリシャに近づいて来て、彼に言った。「今日、【主】があなたの主人をあなたから取り上げられることを知っていますか。」エリシャは、「私も知っていますが、黙っててください」と答えた。

2:6 エリヤは彼に「ここにとどまっていなさい。【主】が私をヨルダンへ遣わされたから」と言った。しかし彼は言った。「【主】は生きておられます。あなたのたましいも生

きています。私は決してあなたから離れません。」こうして、二人は進んで行った。

2:7 一方、預言者の仲間たちのうち五十人は、行って遠く離れて立った。二人がヨルダン川のほとりに立ったとき、

2:8 エリヤは自分の外套を取り、それを丸めて水を打った。すると、水が両側に分かれたので、二人は乾いた土の上を渡った。

2:9 渡り終わると、エリヤはエリシャに言った。「あなたのために何をしようか。私があなたのところから取り去られる前に求めなさい。」するとエリシャは、「では、あなたの霊のうちから、二倍の分を私のものにしてください」と言った。

2:10 エリヤは言った。「あなたは難しい注文をする。しかし、私があなたのところから取り去られるとき、あなたが私を見ることができれば、そのことはあなたにかなえられるだろう。できないなら、そうはならない。」

2:11 こうして、彼らがお進みながら話していると、なんと、火の戦車と火の馬が現れ、この二人の間を分け隔て、エリヤは竜巻に乗って天へ上って行った。

2:12 エリシャはこれを見て、「わが父、わが父、イスラエルの戦車と騎兵たち」と叫び続けたが、エリヤはもう見えなかった。彼は自分の衣をつかみ、それを二つに引き裂いた。

2:13 それから、彼はエリヤの身から落ちた外套を拾い上げ、引き返してヨルダン川の岸辺に立った。

2:14 彼は、エリヤの身から落ちた外套を取って水を打ち、「エリヤの神、【主】はどこにおられるのですか」と言った。エリ

シャが水を打つと、水が両側に分かれ、彼はそこを渡った。

「二つの分け前」とは、エリヤの跡継ぎになることを表します。預言者はいのちがけの働きでしたが、エリシャはその後継者となることを決心したのです。

勇気と献身をもって、尊い主の働きを自分で引き受けてゆくところに、神の国の前進があります。勇気を持ち後継者になりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 22日 土曜

### 列王Ⅱ

2:15 エリコの預言者の仲間たちは、遠くから彼を見て、「エリヤの霊がエリシャの上にとどまっている」と言って、彼を迎えに行き、地にひれ伏して礼をした。

2:16 彼らはエリシャに言った。「しもべたちのところに五十人の力ある者がいます。どうか彼らにあなたのご主人を捜しに行かせてください。【主】の霊がエリヤを運んで、どこかの山か谷に投げたかもしれません。」するとエリシャは、「行かせてはいけません」と言った。

2:17 しかし、彼らがしつこく彼に願ったので、ついにエリシャは、「行かせなさい」と言った。そこで、彼らは五十人を送り出した。彼らは三日間捜したが、エリヤを見つけることができなかった。

2:18 彼らは、エリコにとどまっていたエリシャのところへ帰って来た。エリシャは彼らに言った。「行かないようにと、あなたがたに言ったではありませんか。」

2:19 さて、この町の人々はエリシャに言った。「あなた様もご覧のとおり、この町は住むのには良いのですが、水が悪く、この土地は流産を引き起こします。」

2:20 するとエリシャは言った。「新しい皿に塩を盛って、私のところに持って来なさい。」人々は彼のところにそれを持って来た。

2:21 エリシャは水の源のところに行って、塩をそこに投げ込んで言った。「【主】はこう言われる。『わたしはこの水を癒やした。ここからは、もう、死も流産も起こらない。』」

2:22 こうして水は良くなり、今日に至ってい



る。エリシャが言ったことばのとおりである。

2:23 エリシャはそこからベテルへ上って行った。彼が道を上って行くと、その町から小さい子どもたちが出て来て彼をからかい、「上って来い、はげ頭。上って来い、はげ頭」と言ったので、

2:24 彼は向き直って彼らをにらみつけ、【主】の名によって彼らをのろった。すると、森の中から二頭の雌熊が出て来て、子どもたちのうち四十二人をかき裂いた。

2:25 こうして彼は、そこからカルメル山に行き、そこからさらに、サマリアに帰った。

エリシャの霊的権威が明かにされます。水をいやすことによって、人々を生かす権威があることがわかります。これは地の塩としてのクリスチャンの生き様がこの世にいのちを与えるという、新約の真理を思い起こさせます。私たちも神のことばを受けるものですから、このように人々を生かす者となりましょう。

「小さい子どもたち」とありますが、この原語のナアルは青年や未成熟のという意味もあります。「はげ頭」とは人をばかにする慣用句で、エリシャの権威を貶める行為でした。エリシャの呪いがどんな内容であったかは分かりませんが、具体的に仕返しをしたのではなく、主の名によってその報いを求めたのでしょうか。彼らの行為を認めてしまえば、主の働きに支障が出るからです。

エリシャがそこまで求めていたのではないでしょうが、結局彼らは殺されてしまいました。これはエリシャの霊的権威を明かにする出来事となったのです。

主のご計画と主の権威、また主の秩序がどのようにして表れているのかを、理解し、謙遜に認め、希望を与えられつつ、従いながら建て上げていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





3:1 アハブの子ヨラムは、ユダの王ヨシャファテの第十八年に、サマリアでイスラエルの王となり、十二年間、王であった。

3:2 彼は【主】の目に悪であることを行ったが、彼の父母ほどではなかった。彼は、父が作ったバアルの石の柱を取り除いた。

3:3 しかし彼は、イスラエルに罪を犯させたネバテの子ヤロブアムの罪に執着し、それから離れることがなかった。

3:4 さて、モアブの王メシャは羊を飼っていて、子羊十萬匹と、雄羊十萬匹分の羊毛をイスラエルの王に貢ぎ物として納めていた。

3:5 しかしアハブが死ぬと、モアブの王はイスラエルの王に背いた。

3:6 そこで、ヨラム王はその日にサマリアを出発し、すべてのイスラエル人を動員した。

3:7 そして、ユダの王ヨシャファテに人を遣わして言った。「モアブの王が私に背きました。私と一緒にモアブに戦いに行ってくださいませんか。」ユダの王は言った。「行きましよう。私とあなたは一つ、私の民とあなたの民は一つ、私の馬とあなたの馬は一つです。」

3:8 そして言った。「どの道を上って行きましようか。」するとヨラムは、「エドムの荒野の道を」と答えた。

3:9 こうして、イスラエルの王は、ユダの王とエドムの王と一緒に出かけたが、七日間も回り道をしたので、陣営の者と、後について来る動物たちのための水がなくなった。

3:10 イスラエルの王は、「ああ、【主】がこの三人の王を呼び集めたのは、モアブの手に渡すためだったのだ」と言った。

3:11 ヨシャファテは言った。「ここには、

【主】のみこころを求めることができる【主】の預言者はいないのですか。」すると、イスラエルの王の家来の一人が答えた。「ここには、シャファテの子エリシャがいます。エリヤの手に水を注いだ者です。」3:12 ヨシャファテが、「【主】のことは彼とともにあります」と言ったので、イスラエルの王と、ヨシャファテと、エドムの王は彼のところに下って行った。

ヨシャパテは先にアハブ王と同盟して戦ったときに九死に一生を得たのですが、また不信仰の者とともに釣り合わぬくびきを負うことをしてしまいました。それで水がなくなるという危機に直面してしまっただけです。かつてみこころに反する行動をしてしまったなら、そのような場合は反省して悔いるだけでなく、改める必要があります。

ただしヨシャパテは、ここで預言者を求めて主のみこころを聞こうとしました。主を求めるのに遅すぎることはありません。新約の時代には聖書があります。どこからでもみわざを起こすことのできる主のみことばを求めて、従いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

